

メキシコ最南端、タパチュラ地域で実践される「センブランド・ヴィダ」の植林プロジェクト



▲ マンゴーの木の下でカカオ栽培

メキシコの国策として取り組まれている植林プロジェクト、「センブランド・ヴィダ」。グアテマラと国境を接し、メキシコの最南端に位置するタパチュラ地域は、地理的にも多様性が豊かで、その特性を生かしながら植林活動が大規模に展開されている。それが具体的にどのように進められているか。その現場からの報告をお伝えする。

(ウインドファーム取材班)

変化にとんだ風土、気候のなかで営まれる多種多様な植林活動

0メートルから3000メートルに及ぶ標高差のなかにあるタパチュラ地域は、栽培できる作物の種類も豊富だ。アグロフォレストリーの森に生息する植物の種類は、200種にもなるという調査もあるが、標高の高い地域では、住宅建設用に杉を植えるなど、多様な気候に合わせた植林活動が進められている。

「山岳地域」、「海岸地域」、「平野部のソコヌスコ地域」と、大きく3つのエリアに区分されるタパチュラ地域では、植林プロジェクトの対象となる農地面積は5000ヘクタール(東京ドーム1100個分)となり、25の自治体から2万人の人々が植林活動に参加。苗床は497ヶ所に設置され、年間5万本の苗木提供が可能だ。



▲ カカオの乾燥作業 (フリーダ農園)

市場価値だけを目指すのではない、センブランド・ヴィダの本当の目的。

タパチュラ地域では、カカオとコーヒーが主要作物として栽培されているが、「センブランド・ヴィダ」では、市場価値のある作物だけを栽培する訳ではない。タパチュラ地域において政府は、短期、中期、長期の3段階に分けて、植林を実施している。短期で収穫できるバナナや野菜など自給用作物の栽培。中期(3年〜5年)では、カカオの栽培。長期では、建材となる樹木の植樹を推奨している。

このようにセンブランド・ヴィダでは、自給のための家庭菜園づくり、果物などの栽培も同時に実施され、バランスの良い食糧が得られる環境も整えることが重視されている。植林活動だけでなく、持続可能な暮らしの確立が、「センブランド・ヴィダ」の大きな目的であり、アムロ大統領は、この取り組みを通じて、家庭経済の安定を目指している。

センブランド・ヴィダのもう一つの役割・国営フリーダ農園が担う移民の受け入れ。

タパチュラ地域にあるフリーダ農園は、「センブランド・ヴィダ」の運営を担うピエンエスツール省が管理する直轄農



▲ センブランド・ヴィダの指導員の下、フリーダ農園のなかで農作業をする移民。(DIARIO DEL SUR誌2020年 7月14日より)

園だ。面積は30ヘクタールに及ぶ。この農園は海岸に近く標高が低いため、その高温多湿の気候を利用して、主にカカオとマンゴーを栽培している。カカオの植林は、1ヘクタールあたり1200本が目安だ。

中米諸国から移民が押し寄せた際は、フリーダ農園で移民の受け入れを実施した。移民の問題は「社会的緊急事態プログラム」という政府の支援策の下で、不法に入国しても滞在許可の申請機会とその間の生活費を得られるよう、各機関が連携して、3ヶ月の短期雇用が実施された。

「センブランド・ヴィダ」のタパチュラ地域コーディネーターを務めるホルヘ・レイナ氏によると、現在1600名の移民がタパチュラ地域に就労している。



▲ 貧困に耐えかね、仕事を求めてグアテマラからメキシコへ、川を渡って不法入国しようとしている移民。

ブランド・ヴィダ」に取り組む小規模生産者の農地や集落は、緩衝地帯となる森や幹線道路で隔てられ、数キロの距離が取られている。しかしプランテーションにはセスナ機で殺虫剤が空中から散布されるなど、近隣の小規模生産者は間接的な農地汚染や地下水への影響を常に心配している。さらに、近隣の集落は立ち退きを示唆する脅迫や強盗被害など、治安の悪化にも悩まされている。

その7割以上がホンジュラス国籍で、次いでエルサルバドル、さらにはキューバやハイチなどからの移民も多いという。

大規模プランテーションの存在

タパチュラ地域の平野部では、肥沃で広大な土地が入手できることもあり、世界的にも有名な企業によるバナナ、ゴマ、大豆などの大規模なプランテーション栽培が行われている。

プランテーション栽培の区画と、「セン



▲ ゴマ(手前)とバナナ(奥)のプランテーション栽培

タパチュラ地域で「センブランド・ヴィダ」の 植林プロジェクトに取り組む人びと

【カカオと地域の再生を目指して：カラランピオさんの体験談】

「センブランド・ヴィダ」では、かつてメキシコで盛んに栽培されたカカオの再生が大きな目的となっていて、カカオの栽培を支援する制度が施行されていますが、私もその制度を利用して、カカオの植え替えを進めています。

この地域では以前、カカオの木が「モニリア」という菌の被害を受けました。その時は、カカオの木が弱り、他の木にも影響が出ました。今はカカオの枝を剪定して密度を調整するなど、風通しを良くして、モニリア菌の被害を避けるよう努めています。

「センブランド・ヴィダ」の目的の1つに、地域のつながりの再生があります。地域の生産者と共に有機肥料をつくり、苗床の管理もする。これらの共同作業をつうじて、地域の生産者同士のつながりを新たに作ることができました。

さらに「センブランド・ヴィダ」では、ソーシャルワーカーのサポートもあり、これまでは無かった習慣が身に付くようになりました。例えば、倉庫の清掃です。以前は、倉庫に農具などが散乱することがありましたが、ソーシャルワーカーの指導を受けて、今では清潔な状態で倉庫を保管できるようになりました。

「センブランド・ヴィダ」が機能することで、生まれた土地で生活続けることができ、都市部やアメリカへの移民の動きも抑制できると感じています。重労働で収入も少ない農業は、若い人にとって魅力は乏しい面もありますが、それでもこの制度を通して、若い人も農業に携わり、農業に希望を見出す人も増えています。若い人が、生まれた土地で生活できる基盤ができれば嬉しいです。



カラランピオさん

【次の世代に豊かな森を残したい：クスベルトさんの体験談】



クスベルトさんとお孫さんたち

「センブランド・ヴィダ」においては、同じ集落や地域に住む25名の生産者が1つの組となって、植林活動が行われます。2018年から私もそうした組の一員として植林プロジェクトに参加しています。それまで自分で営んでいた農園も、植林対象の農地となり、枝を落とし、古い木は切り、新しい苗木を植える作業を続けています。

カカオの苗木は、世話をしなければ弱ります。カカオは私にとって家族です。子どもの世話をするのと同じです。私は早くに父を亡くしたため、祖父から土地を耕して生きることを学びました。おかげで森の中でカカオ、コーヒー、果物を育て、家族とつましくも幸せに暮らしています。

また最近、娘の1人が、カカオ栽培に携わるようになりました。発酵や乾燥の工程もこなせるようになり、組合への納品時の厳しい品質基準もクリアできるようになりました。

「センブランド・ヴィダ」では、自分の土地を耕すことで収入が得られます。古い木は新しい苗木に植え替え、将来の収穫は、次の世代の糧になります。昔は現金収入を得るため、雇われて他の土地を耕したこともありましたが、しかし、その時は、どんなに働いても、子や孫に何かを残すことなど全くできませんでした。

次の世代の暮らしを思いながら働けること。それが「センブランド・ヴィダ」に参加して感じる喜びです。

様々な課題と向き合いながら進められていく「センブランド・ヴィダ」の今後

こうした地域特有の課題を抱えながら、タパチュラ地域での「センブランド・ヴィダ」は展開している。将来的に農作物の収穫量は増加が見込まれており、農作物ごとに生産者組合を設立する構想も出てきている。

地域市場での販売だけでなく海外への輸出を進めていくためには、品質の向上と販路の拡大が欠かせない。そこで、ビンエンスタール省は、タパチュラ地域で20年以上、コーヒーやカカオの栽培と販路開拓の活動経験を持つ「カスファ生産者組合」と業務提携に至った。これにより、カスファ生産者組合の技術指導員の下、タパチュラ地域の生産者は、加工や精製技術を高め、農作物を海外へ輸出していくための、高いレベルの品質管理を学ぶことができる。

このように、肥沃な平野が広がり、またグアテマラとも国境を接しているタパチュラ地域では、大規模プランテーションや移民対策など、特有の課題と向き合いながら、「センブランド・ヴィダ」を独自の内容で展開しているのである。



▲ カカオ豆の天日乾燥。発酵後に天日乾燥。強い日差しがカカオ豆に照り付けるので、まんべんなく光が当たるように定期的にカカオをひっくり返す作業が必要になる。高品質のカカオ豆にするための大切な作業だ。



▲ カカオ豆の発酵後の品質確認について、生産者に説明するカスファ生産者組合の技術指導員、イバンさん。生産者はカカオ豆の水分量、発酵度合いについて、高いレベルの管理が求められる。

★ カスファ生産者組合から届きました!!



NEW LOOK

メキシコ産カカオニブ 80g



▲カカオ豆の選別作業。小さなカカオ豆などが混入しないように、しっかり選別する。